

〔講 演〕

内部告発について—公務員の立場から

仙 波 敏 郎

星野： それでは、時間がきましたので、第2番目の講演「内部告発について—公務員の立場から」を元愛媛県警巡査部長 仙波敏郎さんをお願いいたします。

仙波： 皆さんこんにちは。元愛媛県警の仙波敏郎です。

平成17年1月20日、松山市において愛媛県警の長年に渡る組織的犯罪である裏金作りについて告発しました。現職警察官の告発は警察史上、唯一です。将来も出ないと確信しています。

私が告発したのは、警察は正義を守ることが仕事であるにも拘らず犯罪組織になってしまっていたからです。皆さん警察の基本を考えてください。法律を守って、法律を犯す者を取り締まるのが警察であります。

ところが500人のいわゆる官僚、キャリアという警官、東京に警察庁というのがありますが、そこを中心に500人の官僚が25万人の警官を今支配しています。管理しています。全員管理職は犯罪者であります。警察組織は犯罪組織であります。こういうことを4年半にわたって、ずっと言ってきました。私に対して「嘘を言うな」と言った警官は一人もいません。認めているのです。

本稿は、2009年9月12日経営行動科学学会中部部会と愛知大学経営総合科学研究所共催で愛知大学車道校舎で星野靖雄・愛知大学大学院会計研究科教授の司会により開催された講演会の後半です。



左より仙波敏郎氏、串岡弘昭氏、星野靖雄教授

愛知県警には1万3300人の警官がいます。その警官から、ほんとうに厳しい被害を受けている方も今日何人かこの会場にいられています。警察によって自分自身が被害を受けないと、わがことのようにとは思えないでしょう、ですから警察に対する監視活動をしようとは思えないのです。

本当に警察は犯罪組織でありまして、今、日本の国で、日本のありとあらゆる団体、組織、企業がありますが、その中で毎日の日常勤務を通じて犯罪を行っているのは、やくざと警察なのです。こんなことを言えるのは、私しかないのです。なぜなら新米警官以外全員犯罪に関与しているからです。

例えば串岡弘昭さんが、トナミ運輸に対して余計なことをしているということで、いろんな報復を受けました。私は現職の警官なのです、当時は。その警官が、「警察は犯罪組織だ。やくざと同じである」ということを公の場で堂々とやってきたのです。それなのに何の処分もない。何の注意というものもない。

私には85人の弁護団がいます。その弁護団が言いました。「仙波さん定年退職は出来ないかも知れませんか」と。又、「仙波さん、奥さんが何年か前に亡くなっているけれども、あなたもお墓に入りますよ」と、これくらい心配してくれました。

でも、私はそのときに、ある意味ルンルンでした。私は犯罪を犯していない。

だから警察が犯罪組織ということを堂々と言えたのです。ほかの連中はほとんど全員手を汚しているのです。犯罪者なのです。それに対してなぜまともな道をきた私が、なぜ懲戒免職になったり、命を狙われたりしなければいけないのか。罪を犯している連中が堂々と定年を迎えて、たくさんのお金を懐に入れていのですから、私には正義を貫いてきたという自負があります。柔道3段等、格闘技は全部で8段あります。ですから、素手で来るならそれなりのこともできます。

ところが、さすがに警察組織です。記者会見をして告発したら、その1時間後には拳銃を取られました。それでわたしは丸腰になりました。4日後には串岡さんと同じように、報復人事で仕事のないところにやられました。先ほどのテレビ（ドキュメンタリー宣言）にもありましたが、本当に500日間は、こういう高いところから松山城をずっと見ていました。1分でも寝たら懲戒免職にするつもりでおるのです。周りから監視状態です。

ですが、わたしは24歳で、当時最年少で巡査部長になった。そのままいけば当然、愛知県でいえば一番大きな警察署の署長になれる。そういう自信もありました。だけど、警官が法を犯してはならないという自分の原点と言いますか、基本をわたしは守ったのです。そういう意味で、串岡さんに「頑固である」とか、また「頑固そうである」と言われましたけれども、それはそっくり串岡さんに私はお返ししたいのです。

そういうことで記者会見をしました。そうしたら、内部告発者は報復人事を受ける、いろんなことを受ける、まさにそのとおりです。私の場合は仕事のないところに追いやられました。そして、私と話をしたものは全員文書で上司に報告しないといけませんから、誰も話をしない。その上、私の電話、メール、すべて盗聴されていました。

皆さんの携帯電話とか、メールなんていうのは簡単に警察は取れるのです。簡単なのです。ですから、どうしても秘密の話をしたければ、FAXを使ってください。この一番時代遅れのFAXだけは、今の警察組織の技術では取れま

せん。携帯電話などは、ほんとに簡単に取れます。

私の電話はすべて盗聴されています。ですから、わざと女性に、「どこどこで待ち合わせしよう」ということをやるのです。必ず来ています、私服（警官）が。そういうこともやりながら4年半楽しんでできました。

私が全国を回って皆さんに話しているのは、このまま警察を無視し、管理しなければ、皆さんはもとより、子どもさんやお孫さんの時代には、大変な社会になってしまうということなのです。

串岡さんは、いわゆる会社を健全に、というふうに、国民の皆さんの経済面の公のための告発なのです。私の場合は、皆さんを安全・安心という治安面での告発なのです。菅家利和さんという方が足利事件で17年半懲役に行きました。こんなことは、今の日本の警察では当たり前なのです、皆さん。

誰でもいいのです、犯人は。Aさんという男を犯人に仕立てたら、もうそれでいいのです。なぜいいのか。まず検挙率が上がります。一人逮捕したことによって、Bさんから情報があつた（勿論作り話です）ということで、捜査協力費を3万円払いましたということにして、偽領収書を書いて県であるとか国に提出し、支出された3万円を自分の懐に入れるのです。

この金額は、年間400億円ですよ。400億。こんな実態は誰も知らないです。しかしマスコミは知っているのです。知っているのに、それを書かないから誰にも知られない。だから、私はこの口で言っているのです。現職の時代から言っています。

何代か前に國松さんという警察庁長官が、オウム真理教事件のときに狙撃されて重傷を負いました。撃たれた現場が自宅前であつたか否かマスコミは知っています。なぜこの事件が解決できないかもマスコミは知っています。やはりこれも報道しない。

私は今からきついことを言います。もし、この中に警察署長以上のご親戚の方がいるなら、帰って尋ねてください。貧乏している署長以上の人是一人もいません。だって、皆さんの税金から年間何百万というお金を、全部懐へ入れて

いるのですから。全員ですよ。そして、そういう裏金をポケットに入れている管理職が、毎日朝礼で「警官はかくあれ、こうあれ、職業の倫理を考えてまともにやれ」と、こんなことを言うのです。

言われる現場の警官はどう思いますか。「何を言うとするのか」、「おまえ、さっき 100 万円の金を懐へ入れよった」そして「われわれにまじめにやれ」と言われても、誰がやりますか。「源清ければ流れ清し」という言葉があります。トップが腐ったら下も腐るのです。だから、日本全国で警察官の不祥事が後を絶たないのです。

この愛知県の守山署でもありましたね。副署長の飲酒運転。こんなことは、現職の警官から見たら何ともないことなのです。たいしたことではないと思っている警官も中にはいます。それぐらい組織はもう腐ってしまっています。末期癌です。

だから私は、全国を回って警察を監視しているわけです。今厳しく監視しなければ、皆さんの子どもさんやお孫さんの時代には大変なことになりますよ、ということを訴え続けてきました。

串岡さんの告発も公共の利益のためです。私も同じです。警察の裏金を公にして、私の懐に入るものは何もありません。わたしが告発したことによって年間 200 億円の裏金が減りました。4 年間で 800 億円です。わたしも「キムタク法」といつも言っているのですが、さっき言われた「キムタク法（キータム訴訟）」が日本にあれば、800 億円の 3 割で、240 億円のお金がわたしの懐に入っているはずなのです（笑）。

そうしたら、もうこんな貧乏はしていません（笑）。私は警官になった以上、法律を守ろうということで信念を通してきました。ですから愛媛県警は、何とか仙波を排除しようということで、頑張りました。

そこに記者会見した以降は、それは壮絶な報復が加えられました。尾行・張込は当たり前、食事に行ったら何を食べたか、誰が金を払ったか聞込みするのは当たり前です。

日本全国へ講演に行きます。講演に行ったら、必ずその県警からの二人がお客さんに紛れて入っています。何かチョンボがあれば仙波を逮捕しろという警察組織と、4年半闘ってきました。

今日の資料にもありましたけれども、群馬県で大河原宗平さんという非常に優秀な警官が、わたしより前に、テレビ朝日で、顔を隠したのですけれども、「群馬県警にも裏金がある」ということを言いました。それ以降、彼は群馬県警から本当に厳しいマークに遭って、剣道 6 段ですけれども、「大河原が警官に体当たりして怪我させた」というでっち上げで逮捕されて、彼は 23 日間勾留されて、懲戒免職になりました。2,000 万円の退職金が飛びました。それに対してマスコミは何も書きません。これが今のマスコミの実態なのです。

串岡さんは、先ほどマスコミ、メディアは大切にしておっしゃいました。私もそうだったのです。メディアがあるからこそ、愛媛県警には仙波という警官がいて、現職で内部告発したということが伝わりました。「ドキュメンタリー宣言」(テレビ朝日) もいわゆるマスコミの一種です。

裏金が、愛知県では 8 年間で 15 億円というのが今報道されています。千葉県では、わずか 5 年で 30 億円、そのうち千葉県警は 1 億数千万円という裏金があると報道されています。

確かに世の中はお金が大事なのです。全国で年間 400 億円の裏金で警察幹部が私腹を肥やしていると言いましたけれど、私の言いたいのは、もっとその奥なんです。管理職クラスが全員それをやれば、現場の警官の士気が全く上がらない。それでは犯罪捜査ができない。皆さんの安全・安心を守ることができない。だから警察は裏金をやめろと。

ほかの官公庁の捜査は、それからでいいのです。日本の警察だけは、「ああ、警察へ行けば何とかなる」とみんなが信頼して、そして警察へすがってくる、頼ってくる、それにこたえられるだけわれわれは全力でこたえる。そういう組織であるべきだと、私は 18 歳で警察に入ってからずっと思っていました。

私はそれを実行しました。今、警察 OB でそれを言えるのは、実行した私だ

けなのです。25 万人の現職警官がいて、15 万人の OB がいて、ほとんど全員裏金に参与している。おかしくありませんか。

串岡さんが言いました。いわゆる内部通報や、告発した者に対しては、減免措置を講ずるべきであると。これだけ串岡さんが内部告発のパイオニアとして全国で講演もしています。意見も言っています。マスコミも取り上げています。なのに二日前の新聞に、医療費の水増しで関東地区の教授が懲戒解雇になったと報道されていました。そうしたら、内部告発をした人は3カ月の停職なのです。その告発があつて初めて、その医療の不正診療が1億5000万円だとか数億円というふうに公になった。真実が明らかになったのです。ところが告発した人も、水増しに参与したからということで、停職です。

千葉県の森田知事、彼がいいか悪いかは別にしましても、彼がいたから千葉県の30億円の裏金が明らかになった。これも一部です。私の今までの経験から言えば、実際は100億円を超えています。そういう金額が裏金となっています。森田知事が30億円の裏金を明らかにしたのです。なのに彼がお詫びをしなればいけない。

県警のトップは本部長です。漆間巖元警察庁長官は、愛知県警の本部長をしていたことがあります。裏金にドブブリ漬かったその元長官を、麻生政権は内閣の要である内閣官房副長官に入れたのです。だから、漆間さんは、民主党の小沢一郎さんの事件があつても自民党には及ばないということを平気で言えたのです。

それはなぜか、彼は警察のトップでしたから、今の警察の幹部は自分の元部下なのです。みんな全員裏金にどっぷり漬かった連中なのです。

そして、先ほど串岡さんがおっしゃったように「検察庁へ訴えればよかった」と。それを聞いて、たぶんこの中でそれに反対の意見を持ったのはわたしだけでしょう。検察庁も裏金にどっぷり漬かっていた組織なのです。今のほとんどの検事の捜査能力には疑問を感じています。警察がつくった被疑者調書、参考人調書、証拠、その他捜査資料を見て、彼らは頭がいいですから、それらの書

類に手を加えて、そして、形を整えた書類にして起訴するわけです。

だから、警察がつくったすべての書類、それが偽であったとしても彼らがすんなり受け入れるから、菅家さんのような事件がいくらかでも起きるのです。富山の柳原浩さんという方は、強姦罪で3年近く服役しました。表に出てから真犯人が見つかりました。鹿児島の志布志では、違反そのものがないのに、警察が事件そのものをつくりました。警察が選挙違反を検挙することによってお金が、裏金が入ってきますから。

逮捕状を出して、そこへ勾留する許可を出すのは裁判官なのです。警官がつくった偽の書類を、それを裁判官は真に受けて、そして判決を出すのです。だから、裁判員制度みたいなものができるのです。もちろん裁判員制度ができたからといって、すべての事件でまともな判決が下りるとは限りません。

今、日本の司法はそういうふうに、もう本当に末期癌です。わたししかそれを言えるものがないということが、もうその証拠です。今、日本の警察は25万人、一般職を入れて30万人います。キャリアが500人です。そのキャリアに言われたら、このわたしを何とかしようという愚かな現場の警官が多いのです。だけどわたしの命が今あるのは、末端の現場の警官の中には、やはり今のままではいかんという志の者がいるからです。だから警察幹部が「仙波を何とかしろ」と言ったときに、「あの仙波に対してでっち上げで逮捕したり、命を奪おうとすることは不可能だ」と言った警官がいたそうです。

愛媛県警では、仙波敏郎という男は、有言実行ということを全員知っています。仙波は裏金に関与していない。偽領収書を一度も書いていないことを知っています。だから命令されても、実行部隊は一人もいなかったのです。正義のためなら、確かに命を落とす覚悟のある警官も何人かは居ると思います。ほとんど逃げますけれども。だけど不正義のために仙波を逮捕して命を落とすのは、それはどうしても避けたい。それぐらい切実な状況なのです。

群馬県の大河原さんと私の違いは、彼は非常に男前であります。彼は紳士なのです。でっち上げで逮捕されても、結局逮捕されただけで彼は抵抗等無く終

りました。わたしは拳銃を取られていましたが、私に対して不法な行為を仕掛けてくる者とは最後まで闘う覚悟でいました。しかし、そういうことに至らずに定年退職しました。

その間、テレビ朝日は4年半ずっと、私の取材をしていました。皆さんが「警視庁24時」とか、「日本の警察24時」とかいうのを見ていますが、やらせも多いのです。ところがこれをやると視聴率が取れるのです。警察を怒らせてマスコミと反目になったら、そのマスコミ、その新聞社は困るのです。三面に載せる記事が手に入らなくなるのですから。だからマスコミの連中はすべて知っているけれども、書かない。

テレビ朝日が4年半取材をして、数十回も東京から来ました。そして、5月11日に放映ということで、私の前の放映が鳥越俊太郎さんの癌の闘病記録、その前が南田洋子さんの認知症の問題、そういう番組に、ほんとに田舎の愛媛県警、わずか2,500人しかいないようなちっぽけな警察本部の一巡査部長を取り上げて取材をしたのです。

番組を見られた方は分かりますように、私が涙を流している場面が何度かありました。これは編集のせいでありまして、私は泣き虫ではありません。しかし、テレビの反響はすごかったです。

私は今から8年以上前に女房を癌で亡くしましたがけれども、テレビを見て、感動しましたということで、結婚したいという申し入れが相当ありました。中には水着の写真を送って来た人もいます。そういうのはお断りしたら済んだのですが、3億円の財産を仙波さんに相続してほしいという東京の方がいました。89歳の方です。その方は身寄りが無い。だから89年生きてきてこんなに感動したことはない。だから仙波さん、わたしが死んだらこの3億円を相続してくれませんか。

それをもらったら、仙波は3億円が欲しいが故に告発したのかというふうに警察庁のほうへ塩を送ることになるから、そういう気持ちだけお受けしますということで、お断りしました。そうしたらまた3日後にかかってきました。ま

だ受け付けてくれませんか。

翌日は弁護士会議がありまして、そこで冗談で言ったのです。そしたら弁護士団が全国で 85 人のうち愛媛県には 15 人がいますが、彼らが、「仙波さん、その話受けましょう」と言うのです。「しかし仙波さんは、他人ですから相続はできない。だから親子縁組しましょう」と言うのです。更にまた若い弁護士が、「いやそれよりは NPO 法人を立ち上げたら、税金の面で非常に有利だ。だから NPO を立ち上げましょう」と言うのです。勿論、笑い話で終わったのですが、それが 5 月でした。

今は 9 月です。ちょうど 4 カ月たちました。あのとき、もらっておけばよかったと思う、そういう気持ちがないでもないのです。ある党からもかなり選挙のオファーがありました。もちろん比例区の当選の範囲です。だけど、私がそれに出れば、仙波は選挙に受かりたいために告発したのだというまた、塩を送ることになるのです。だから私は、丁重にお断りしました。次の参議院のときに来ても、その気持ちは変わりません。

そんなこんなで、私は警察を何とか変えたいということで、本当に捨て身で告発をしました。

私の後に続くものは、100 年たっても出ないでしょう。現職の警官で、「裏金づくりのための偽領収書を書かされました」「空出張をしました」と、内部告発する警官は一人も現れないでしょう。それは、さっきわたしが言ったように、内部告発したものは減免をする、刑を免じるという措置がない限り。

私が告発出来たのは、裏金作りに何ら関与していなかったからなのです。

「私は書かされました」と認めたら 3 月以上 5 年以下の懲役なのです。公文書を虚偽に作成したら、1 年以上 10 年以下の懲役なのです。それで、この愛知県庁や国に対して 3 万円、5 万円というお金を請求したら、これは詐欺です。あれやこれやたくさん刑がありますから、最高 15 年の懲役に行く罪を犯したことになるのです。その者は即、懲戒免職です。

そして、「おまえだけがやったんだ」「自分の良心の呵責に耐えきれずにきみ

は言ったのだろう」「ほかの警官は誰もそんなことはない。おまえがしたのだぞ」と逮捕して、懲戒免職です。

ところが、24歳の最年少で巡査部長になったときから、偽領収書というのを拒否したために、それからいくら昇任試験の学科を通っても昇進できません。日本の警察の中枢部である、皆さんの動向をチェックする警備公安課、もしくはテレビの「相棒」なんかでかっこよく思われている刑事課、こういうところへ行ってばりばり仕事をしようと思っても、裏金にどっぷり漬かっているところですから、私はそういうところには行かせてくれない。

私より、取り調べの技術に優れた警官は愛媛県警に誰もいないと自負しています。私がこの手で調べた被疑者は全員自供させて、全員有罪になっています。こんな男は、使いたくないのです。なぜなら、仙波は裏金に関与していませんから。国民のほとんどの方が裏金、裏金といっても、県庁のように備品を買ったり、署員の親睦にお金を使ったり、ある程度仕方がないじゃないか、必要悪じゃないかというふうに考えていると思います。

ところが、警察の裏金だけは違うのです。警察署長以上の管理職、愛知県の場合は1万3300人のうち管理職は300人です。裏金のほとんどが、この300人の小遣いなのです。じゃあ、なぜ部下が裏金を一生懸命つくるのか。簡単なのです。自分がそういうポジションになったらもらえるからなのです。そして、そういう裏金をつくって上納しなければ、自分がその高いポジションに行けないのです。裏金作りを拒否すれば、仙波のようになるのです。だからほとんど全員が一生懸命つくるのです。

又今、警察部内では、女性職員に対するセクハラなんかはよくあることです。女子職員が勤務しているところを、うしろから管理職が肩越しに胸を触って、「おまえ、大きな乳しとるのう」ということが今でもあるのです。警察の中では、もっとひどいこともやられています。「女房と別れておまえと結婚するから付き合いしろ」と言う愛媛県警の一番出世の男は2年間女性を引っぱり、苦しめました。悲しい出来事も起こりました。

そんなことも報道もされずにいますが、マスコミは知っているのです。一番出世の男はいまだにエリートです。最近、胸を触った管理職は、2年間冷や飯を食らっていましたが、2年たちましたら現場復帰です。それもこれも、元凶はすべて裏金なのです。今200億円減っていますが、まだ200億円あります。

警察予算は全国で3兆2000億円です。愛媛県あたりは1パーセントですから、380億円ぐらいですね。愛知県警の場合、警官は1万3300人います。一般職を入れますと1万4500人ぐらいいますから、愛媛県警の約5倍です。予算で言いますと1,500億円ぐらいあります。

3兆2000億円の国家予算のうち裏金は、400億円ぐらいですからちょっとやないか、おまえたちの安全を守っているのだから、嫌なら頼るなど。市民から信頼されなくていいのだという気持ちでいますから、約1パーセントの金を、警察幹部は懐へ入れているのです。

よく事件があったら、いい格好をして、捜査本部長とか、刑事部長とか、いわゆる警察幹部が記者会見をします。彼らは、まじめな顔をして記者会見していますけれど、終わった途端に満面の笑みなのです。なぜか。事件が起きたらお金が入るから。どのぐらい入るか。それは、強盗、郵便局強盗とか、そういう強盗クラス以上になると捜査本部を設けます。

そうすると、愛知県なら愛知県警の会計課から、犬山なら犬山署の警察の会計課に口座で800万円ぐらい下ります。本来ならば、そのお金で、捜査員は必要なだけ車を動かして、足りない場合はレンタカーも借りて、そして捜査をするのです。800万円あったら、かなりな捜査ができます。

ところが実際は違うのです。その800万円は、この場合は例えですけども、守山警察署の会計課長が銀行員を呼んで、800万円全額を下ろします。下ろした日に半分の400万円は、警察本部の捜査1課にキャッシュバックです、キックバックします。残った400万円のうち100万円は署長が懐へ入れます。副署長がおったら50万です。各課長が5人います。30万ずつ要ります。800万円来ても200万円しか残らないのです。だから、自分の車でガソリンをたき、自

分の携帯を使うから、捜査員はアホらしくなって事件が起きたらパチンコ屋へ行って仕事もしない。だから事件は挙がらないわけです。

今、日本の国では 180 万件ぐらい刑事事件が、交通事故以外に発生していると公表されています。この愛知県では、年間 15 万件ぐらいの犯罪が起きていると公表されています。しかし、その 180 万件という事件の中で、何パーセント検挙しているか、東京にある警察庁が、検挙率を毎年発表します。だいたい 32 パーセント検挙しているというふうに公表しています。

180 万件の 32 パーセント、57 万件ぐらいの事件を検挙していますと言っても誰も嘘だと分からないのです。自転車を盗んだ、捕まえた。周りにあった 4 ～ 5 件の同じような事件は全部その犯人が犯したことにするのです。そして毎年 1 割ずつ犯罪認知数が減っています。分母を減らすのです。つまり、減っているのではないのです。警察は賢いのです。犯罪発生件数と言わないのです。犯罪認知数と表現しているのです。

だから、皆さんが被害届に行っても、すべてを被害届というものに書かないのです。これはちょっと捕まえにくいなと思ったら、現場臨場簿という書類に変えて、はい、これに名前を書いてくださいと書かせるのです。

(犯人が) 捕まったら、現場臨場簿を被害届に計上して、犯罪認知件数に入れるのです。毎年約 20 万件ずつ犯罪件数が減っていると公表していますが、今の日本で犯罪が減っているはずがないのです。わたしは現場で三十数年やってきたのですから、肌で感じてきました。ずっと犯罪は増えているのです。なのに犯罪発生を認知数で減らして、そして、でっち上げで検挙したものを件数に入れて、それで検挙率 32 パーセントですと公表しているのです。わたしの経験では、犯罪検挙の本当の正しい数は 10 パーセント台ぐらいです。こんなことを、今の日本の警察は当たり前のようにやっているのです。

そういうことで、警察の本当の実態を多くの市民の皆さんに知ってもらい、何か方法がないかなということで、4 月 1 日に、この本『現職警官「裏金」内部告発』を出しました。これは講談社からです。これは愛媛県のことを書いて

います。しかし、愛媛県イコール全国の警察ですから、一緒です。全国の警察はどこを切っても金太郎郎です。一緒です。だから、警察のそういう不正義によって被害を受ける人が多いのです。全国の相当な方が泣いています。

では、どうして冤罪が起きるか。簡単なのです。犯人は取り調べ段階では、犯行を認めたから犯人に間違いないと言うわけです。しかも、市民の皆さんの大多数は、裁判では否認しているが、犯人でなければ警察の取調べで認めたりしないだろう、と思っているのです。警察もそれを逆手にとって、あえて報道を利用するのです。自供したと聞いた方の、90 パーセントぐらいの方が、犯人に間違いないとの誤った判断をしているのです。そうさせているのです。それは、自分がそういう立場にないからその様な判断をしてしまうのです。

例えば、「H 先生が電車の中で女性のお尻を触った」と女性が嘘を言ったとします。そうしたら先生は即逮捕されます。被害者がおるのですから。ただ先生はやっていないから、僕はやっていないと。じゃあ否認だなと。否認して先生は最後まで押し通すと思いますけれど、逮捕されてほとんど裸にされて、少し前までは、それこそ肛門の穴まで調べられて、そして留置場へ入れられて、トイレをするときは、ここ（腰）から上は丸見えです。終わったら「紙をください」「水を流して下さい」です。

そして、こいつなかなか自供しないと思ったら、病気持ちのような被疑者を一緒に入れるとか、やくざを一緒にの房へ入れて脅かすわけです。そして3日ぐらいしたときに、急にこう言うのです。「おまえのことはもう新聞に出とるぜ。H、大学の先生が痴漢をしたと」。そうしたら、新聞記事を見た皆さんは信用するじゃないですか。

そして言うのです、調べの段階で。「今からまだ否認するのか。おまえがした、してないは関係ないのだよ。被害者がそこで言うた以上諦めろよ。認めたら今すぐ出られるし、5万円の罰金で済む。このまま否認を続ければ、計23日間留置（勾留）されて、そして最後は起訴されて、そのときには写真が出るぜ。どこの大学の誰々先生、写真に出るぜ」と。そうしたらほとんどの方は認め

ますよ。吐きますよ、やりましたと。

確かに足利事件の菅家さんは、現場近くを自転車で乗って通ったことがあるのです。彼はそれだけで疑われたのです。もう、それだけでいいのです。その上、たまたま警察にとってよかったのは、DNA がわずか 8 3 3 人に一人しか合わないのに、それが合ったのです。それで追い風になったのです。だから裁判官は菅家さんの真実の叫び（供述）を無視して、無期懲役を下したのです。

彼には、実はあと 2 件の容疑があったのです。女兒被害の 2 件の殺人事件ですが、それを一緒に起訴したら必ず死刑なのです。だから検事もそれを知っていて他の 2 件は不起訴にしたのです。それで、彼が獄中死してくれるのを待ったのです。ところが、逮捕されてから 17 年半獄中で生きました。同じ時期に、福岡で同じような事件で犯人になって死刑判決があった人は、その足利事件のことで再審うんぬんというときに慌てて死刑を執行されました。

こんなことが今、日本の司法では当たり前なのです

自分たちが、痴漢であるとか、いろんな事件の犯人に仕立て上げられないから、みんな警察のことを信用しているのです。わたしが講談社との話で半年かけて本を書きました。表紙のカバーをつくるのは装丁家というらしいのですが、鈴木成一さんという方は、日本一の評価を受けていると聞いています。彼に表紙デザインを依頼してもなかなか受けてくれないそうです。原稿を見てから受けるそうです。

わたしのゲラを見て、その鈴木さんが「受けましょう。表紙をつくりましょう」と。そのときのコンセプト、基本が、仙波という人間は真実と潔白だ、だから（表紙が）真っ白なのだと。で「裏金」部分を金色にしました。この原稿から見ると、警察は表から見たらきれい、ほんとに統一されてきれい、しかし一皮むけば、警察というのは真っ黒だ。だから、表紙を外せば真っ黒の本にしたのです。これがプロの表紙のデザイナーが考えたものです。

まさにそうなのです。警察というのは、表向きはきれいごとを言っています。だけど、実際は本当に犯罪組織に成り下がっている。警察がまともになれば、

官公庁を取り締まることもできるのです。だけど、警察が腐っているから、愛知県庁だろうと、千葉県庁だろうと、みんな当たり前でやるのです。

それともう一つは、今、現場で苦勞している警官です。汗水流してやっています。彼らも5年以上経験のある人は、ほとんど偽領収書を書かされています。全員に赤信号を渡らせるために。だけど、そういう現場のものに対して厳しい言葉を掛けないでほしいのです。彼らは家族のために、自分のために嫌々偽領収書を書いているのです。お金はもらっていないのです。ですから、厳しい監視は現場の警官ではなくて、警察署長、副署長といった管理職に向けてほしいのです。

一つだけ例を挙げて最後にします。

愛媛県警では、公務員は、6月と12月にボーナスがあります。ところがボーナスもすべて全額署長は使えません。どこのご主人でもそうでしょう。口座に入ります。奥さんが管理します。だいたい警察署長の奥さんというのは、心に問題がある方が多いように見受けられました。だんな（署長）の心が歪んでいますから、夫唱婦随なのでしょうか。100人クラスの警察署長の年末のボーナスは175万円位ありましたが、奥さんが全部管理しますから、だんなに5万円か10万円かしか渡さない。

裏金をつくる副署長がそれを知っていますから、ボーナスの日に帯封のついた100万円を書類バサミに挟んで、「署長、ボーナスです」と渡すのです。署長は分かっていますから、「お、副署長すまんのう」、「いえ、わたしも半分もらっていますから」と。この裏金は、皆さんの税金ですよ。警察官の制服を見てください。内ポケットが大きいのです。現金を入れるために大きいのです。

だから、そういうふうなことで、私もまだ命のある限りは、星野先生のような本当に先を見る先生方のオファーがあれば、喜んで全国を駆け巡ります。少し前に、私のことを映画にしようという大手の映画会社もありましたけれども、やはり警察関係者からの圧力で、潰れました。映画化が潰れても、わたしはめげません。私しか、警察の本当の実態を話すことは出来ませんから、5人以

上集まって頂けたら、この顔で飛んで行きます。

ですから、そういったことで現在、愛媛で警察見張番を立ち上げて、いろいろな相談に乗っています。1日平均10件ぐらい全国から来ています。まだまだ全国を駆け足で行けます。私は、アラカンで年齢が60歳。体脂肪18.5です。握力が65あります。まだまだ元気ですから、皆さんとお会いすることがまだあると思います。そのときには笑顔で会えるようにわたしも頑張りますので、よろしくお願いします。

一応本を売っています。

星野：どうも仙波さん、ありがとうございました。先ほどと同じようにコメント等をいたしたいと思います。

さて、本学の図書館に寄付していただいたご著書『現職警官「裏金」内部告発』の中で、全国の警察組織ではまだ裏金づくりが続いていると書いてありますが、現時点でも事実でしょうか。

二つ目が、同じ本の116ページに「飲酒運転の検挙に報奨金を出す」というのがありまして、これに予算がついているかどうかです。118ページに「交通安全協会の会費の中から報奨金をもらう」とあるが、報奨金は交通安全協会、これは免許の更新のときに交通安全協会への会費等の支払いを勧められたのですが、最近は言っていないですね。なぜ変わったかについてちょっと確認したいです。

それからもう一つ、制度的な話で、先ほどは、民間では公正取引委員会ですが、もう一つ会計制度に関しては会計検査院というのが憲法第90条で設置した行政機関です。これは内閣に対して独立しているんですね。結果として司法、行政、立法3権の主権から独立しています。すべての国家機関に対して検査する機関です、会計検査という検査権限があるわけで、2008年の会計検査が1,757億円の是正効果があったとホームページに書いてあるのですけれども、予算は

175 億円なんです。それで割ると予算の 10 倍の効果を上げていますというのが出ています。

これに対して、アメリカのそれに相当する GAO（Government Accountability Office）があります。以前は、Accounting（会計）になっていましたけれど、今は Accountability になりました。GAO のホームページには、予算が 507.2 ミリオンドルで、経済的効果は 58.1 ビリオンドルであるとしていますので、計算しますと、予算当たり 115 倍の効果があるのです。ということは、アメリカの方が日本より 10 倍以上も効率が高いということになります。これはもうちょっと詳しく調べる必要があるかもしれませんが、少なくとも両方とも公開データです。ネット上の公開データからの数字を拾ったのですけれども、近年いわれているように会計検査院は強力な機関ですが、アメリカぐらいに強力なら、さらに一層期待できる国家機関ということになります。

その例として、会計検査院が 2008 年 10 月に無作為に調査対象とした 12 道府県で、すべてについて不正経理が見つかったのです。北海道、京都、青森、岩手、福島、栃木、群馬、長野、愛知、岐阜、和歌山、大分と。ということは 12 で全部あったということは、ほかにも全部あるのと同じことです。だから 47 都道府県全部あるんですよと会計検査院が言っているのです。¹⁾

つい今週 9 月 10 日（木）にテレビ番組を見ていまして、朝やっている『みのもんたの朝ズバッ!』というのを見ていたのですけれども、そこで、森田千葉県知事が、幹部とともに陳謝しましたね。幹部等にたいして、マスコミが「不正経理を以前から知っていましたか」と聞いたら、誰も何も言わなかったです。絶句ですよ。

当然、それにかかわっているのですよね。聞かされると、知っていて何もしていないと当然問題になりますから、黙っちゃう。これが千葉県の官僚機構です。

1) 日本経済新聞社 (3) では、会計検査院が国の 2009 年度の決算報告書で過去最高の約 1 兆 7904 億円の不適切経理があり、すべての都道府県を政令市（相模原市を除く）で総額計約 53 億円の不正経理が見つかったとしている。

愛知県も同じことをやれば、恐らく黙っちゃうと思うのですけれども、

東さんの本の246ページに、東さんの本というのは、この本も寄付していた本で、仙波さんの盟友で仙波さんについてのご著書があり、最近東さんは亡くなられたのですけれども。東 (1) そこの中に書いてあることで、「国家警察事案の執行状況は会計検査院がし、全部の会計資料が開示されているが、県費を監査する監査委員には開示していなくておかしい」と書いてあるのです。この点を「あれっ」と思ったんです。当然、会計検査院に開示する情報だったら、県費を監査する監査委員、県レベルの監視でいいわけだと思うので開示しないのはおかしい。

それからあと、先ほどの串岡さんへの質問と同じに、キムタク法（キイタム訴訟）²⁾ とか言われていましたけれども、その問題と同じ質問。それから5番目が、ちょっと今の政権の問題、不正絡みですけれども、政権交代で民主党となったのはいいんですけども、わたしも改革したほうがいいという考えからですから、それでよりよくなるだろうと思うんですけれども、しかし、現実の民主党のナンバー1、ナンバー2は「政治資金規正法」で今、問題ですよ。だから政治家が一番問題だと思うのです。

政治家自身がそういうふうの問題を抱えている。政権を取ったんですけれど、お金の問題は依然としてあるのです。政治家の問題なんです。極端に言えば大学も問題があります。不正経理で、科研費を不正経理でやったというのは、最近の例で名古屋大学が3例というのは知っています。それから、東京の私立大学の教員で、わたしのかつての筑波大学の同僚もやはりそうです。科研費の不正使用です。よく知っていますけれども、そういう人に接触するときに一番困るんです。どういうふうに言ったらいいかです。不正使用した人への対応で非常に困っているんですけれども、そういうことがありますということで、そのへんについてお答え願えればと思います。

2) キイタム（Qui Tam）訴訟は、内部告発者が政府にかわって損害賠償の支払いを求め、加害者を提訴することである。奥山 (4) 164 頁。

よろしくお願いします。

仙波：警察の裏金というのは、説明しましたように、本当に社会で必要悪の裏金ではないということを知っていただいたと思います。当時 400 億円が、私が告発してから現在 200 億円に減りました。200 億円のうち大まかなのは空出張なのです。空出張は領収書が要りませんから、いまだにあります。

例えばこの学校であれば、各廊下に観葉植物を置いていますね。これを一遍、愛媛県警が買うのです。9 万円ぐらいで。そうしたら、来月は 1 階に置いたのを 2 階に上げるのです。2 階のは 3 階に上げる。それでまた買ったことにするのです。ですから、毎月 9 万円程度のお金が浮くのです。それを枯らすと大変ですから、枯らさないようにしていますけれども、そういうふうにもものを買ったという形にして裏金をつくる。これも裏金の一部です。トータルでそれが今現在、全国で 200 億円まだあります。

2 番目の報奨金の件ですけれども、これは実は 1,000 円なのですけれども、皆さんが免許更新の 5 年ないし 3 年のときに、安全協会費を払われますかということで何百円掛ける 5 年分を払います。そのお金から、飲酒運転を検挙した警官に交通キップと引き換えに、1,000 円を手渡していました。1,000 円というのは、皆さんは単純に思いますけれども、1 日に 2 件で 2,000 円です。月に 12 日ぐらい仕事をしますから 24 件、2 万 4,000 円入るのです。だから結構ばかにならんお金になります。

まだこれは、皆さんが払っている安全協会のお金を飲み食いを使うよりは、私も百歩譲っていいと思うのです。ところが弊害が出るのです。1,000 円欲しいが故に飲酒運転で偽造があるのです。捏造があるのです。冤罪があるのです。簡単なのです。酒屋の前で隠れて交通検問をすればいいのです。当時、生ビール中 1 杯ぐらいでしたら数値は出ませんでした。だけど、飲んでるのは事実なのです。飲酒検知しても当然証拠は足りません。そこで「おまえ自分でこの白線の上を歩け」と、歩かせているうちに、自分が事前に用意しておいた（つくっていた）偽の証拠とすり替えるのです。で、戻って来たら、すり替えた証

抛を見せて、「あ、おまえはこんなに酒を飲んどる」。しかし、「交通キップに名前を書いて認めたら、罰金が5万円で終わる」と。だけど、「認めないのだったら、おまえ酒酔い（運転）で一発取り消しするぞ」と。100人が100人認めて名前を書きます。その警官は交通キップを持って交通課へ行って、安全協会のお金から1,000円をもらうのです。そんなことで愛媛県では何人の人が、無実で罰金を払ったのか、数え切れないのです。勿論、私はやっていません。

そして、会計検査院の問題ですけれども、これはあくまでも国費です。捜査費の国費というのは、それまで全国で年間60億円ぐらいありました。この60億円を何に使ったかと、警察庁から会計検査院へ報告する書類は、マスキング、真っ黒にすることができないのです。

ですから、会計検査院が東京の警察庁に監査で入った。そうしたら、書類は全部出さないといけないのです。だから会計検査院の検査が入る前には、全国の警察本部から会計担当を呼びつけて、そこで、「こういうことについて今年は主に〇〇の調査があるから、書類を改竄して、徹底してどこを突かれても構わんようにしておけ」という指示が流れるのです。

会計検査院の監査は、警察庁の報告内容の辻褄が合っているか否かのみです。誰にお金を渡したということの調査をしません。だから警察も、会計検査院についてはほとんどクリアできるのです。

それと、今度は県の監査です。県の監査には、捜査上の秘密という警察の伝家の宝刀を抜けるのです。それで、これは捜査上の秘密だということで、誰にいくら渡したかという金額だけは出しますけれども、誰に渡したかという名前はマスキングです。県の監査委員は真っ黒になっているものを、Aさんに5万円、3万円とあっても金額と払った金額は合うのですから、県の監査は、効果はゼロなのです。

だからわたしは、告発した後、愛媛県の監査委員から呼ばれました。県の監査委員は県知事の一番人望といいますか、県知事の一番仲のいい人、お友だちを選んでおるのです。彼らがわたしに聞くのです。「仙波さん、平成13年の捜

査費の不正について、あなたは捜査費を執行しましたか」と聞かれるのです。「いやわたしはそういうポジションにいなかったから、わたしは協力金を払っていません。しかし、わたしの横におった同僚が 5,000 円の領収書を書いてます」と言ったら、「そんなことを聞いてないのです。あなたが執行したか、しなかったかだけ言ってください」と。それで、たった 5 分で終わりました。それが今の、愛知県を含めて県の監査委員の力量、立場なのです。だから、こんなものではなくても同じなのです。

会計検査院の監査の場合は、全国から 12 道府県のみを選んで実施したのですが、全部ありました。じゃあ、なぜ全国でやらないかです。そうすると会計検査院は言うのです、「うちにはそれだけのスタッフがいらない。たくさんいないから抜き打ちでやるのです」と。だから、抜き打ちでやった都道府県は、「運がない」と言ってあきらめているだけです。もう本当に世も末の状態です。

4 番目の立法、法律の制定ですけれども、やはり、警察の立場というのは犯罪を捜査するところなのです。ですから、この立法に関して、わたしがあーあるべきだ、こうあるべきだということを自分たちが思っても、そういうことを、「おまえは違うだろう。警官だろう」ということで、職場でそういう話をするすべて潰されます。だけど「請求法（国家賠償法）」というのは、これから串岡さんのような立場の方がどんどん出てきたら、やはり変わるのではないかと思います。

警察の部内からは、こういうことは当然できて当たり前ですけれども、例えば 3 割の日本の税金が安くなったから、それに対して 3 割を配当するということは、警察官には適していないと思います。これをやりましたら、警察組織はがたがたになります。だから、そういうお金のものについては、民間の企業の方、一般の県庁の方にはそういうことでできていいと思いますけれど。

5 番目の民主党の関係ですけれども、実は警察の裏金について追求したのは、共産党と民主党なのです。私も何度も議員会館へ行ったり、呼ばれたりして、この 4 年間に何度も行きました。彼らは一生懸命「野党だから」やったのです。

そして警察庁へ一生懸命質問趣意書を出して「どうなのか」と、こういうふう
にやってきました。

ところが警察官僚は、衆議院選挙で民主党が勝ちそうなものですから、それ
までけんもほろろにしていた民主党のところへ、長官が行くのです。「先生、お
手柔らかにお願いします」と。野党時代にはあれほど無視した議員のところへ、
政権与党になった途端、天下の警察庁長官が挨拶に行くのですからね。

わたしは民主党を好きなのです。好きだけれども民主党議員も人の子です。
警察と事を構えようなどとは考えない。自分の選挙といえますか、政治家の命
を懸けてまで果たして警察と事を構えようという人は何人いるかなと。

唯一例外が鈴木宗男さんです。彼は逮捕されました。だから、個人的な思い
もあって警察に対し特別な感情を持っていると伝わって来ました。私も何度か
彼とお会いしまして、いろんな情報も提供しました。そして彼は、警察庁に質
問趣意書を提出しました。だけど、現在は思うところがあって、全く接触して
いません。

民主党になっても同じようになる可能性があるのではないかと考えています
けれども、期待はしています。あきらめたら人間は駄目ですから、期待をして
います。そのぐらいです。

星野：フロアーのほうからご質問がございますでしょうか。はいどうぞ。

会場質問1：植草教授の事件や防衛省のセクハラ事件。そこらへんはどうか、
もしご存じであればお願いします。

仙波：はい。植草さんの場合は、ミラーマンと彼は言われていますけれども、
一度目は、彼は当時の政権の総理の反対、反目なことを言いましたから、その
可能性はなきにしもあらずと私は思うのですね。1回は。だけど2回やってい
ますから。

一度そういうことで冤罪で検挙されて有罪になったと。それなら手錠は持た
ないほうがいいでしょう。それを持って歩いたら、また引っかけられる可能性

があるのですね。だから、僕は彼を取り調べていませんけれども、僕が取り調べた人間で、彼が黒なら絶対に自供させていますね。だけど彼は否認していますよね、ずっと。否認すると刑罰は重たいですね。

だから、植草さんが本当に痴漢したかどうかというのは、僕は自分の今の立場では、白か黒かは自分が調べていませんから、はっきりしません。今後もし彼が私のところへ来て私が半日ぐらいなら調べますけれど、ちょっと分からないところがありますね。

警察部内で、そういうセクハラ事件が無罪になったりというのは、やはり被害者に対する圧力なのです。愛媛県警に限らずどこでもそういうのはありますけれども、直に訴えますと必ず女性に対する圧力をかけます。組織としてね。

だから、これも自衛隊の中で今、北海道でも裁判をやっていますね、女性の方が被害に遭ったということで。今、日本の国では官公庁、特に権力組織、自衛隊であるとか、警察であるとか、検察庁を含めてそういう事件については、ほとんど黒を白にされるということを覚悟していないと、あまりそういうところに正義を求めても駄目だと思います。

星野：ほかに質問はございますか。

会場質問2：いろいろ今の警察のことを言われましたけれども、だからどうすればいいと思っていらっしゃるんですか。組織をぐるっと変えてしまうとか、その場合は、先生も中に一緒に入って、政治で直していただければいいと思いますが。

仙波：わたしの、愛知県の今日お越しのお知り合いの方も、そういうことを今日この講演を始める前にお話ししたときに、なぜ政治家にならないのかとおっしゃってくれたのです。わたしがそれに乗れば、言いましたとおり、仙波は金が欲しかったのか、政治家になりたかったのか、だから告発したのかと、こうくるのです。だから私は、意地でも議員にはなれないのです。お金ももらえないのです。それが一つです。

警察を本当によくしようと思ったら、少なくとも 10 年から 15 年はかかります。10 年たてば、今の管理職は全員退職するのです。ですから、10 年間は自分の命と自分の財産は自分で守ってください。

それで、私は監視してくださいということを申し上げたのですが、警察のやっていることに対して、警察が発表したことを鵜呑みにしないで欲しいのです。誰々が事件を起こしたと言っても、本当に起こしたのかという関心を持つだけでいいのです。

一般の国民の方は（私も一般の国民ですけども）、なかなか警察と事を構えてということはできません。だけど、今ここで取り締まりをしていれば、「君たちは本当の事故防止でやっているのか」と言うことは出来るのです。監視で現場へ行行って、「ここが一番取り締まりやすいからするのだろう。これをやるのだったら、やくざの車をやらんかい」というようなことで、現場で抗議をされるのが警察が一番嫌なのです。

だから、どうか警察のしていることを鵜呑みにせずに、そして関心を持ってほしいです。それを僕はお願いするだけです。

星野：あと 1 分ぐらいで、ご質問ございますでしょうか。

会場質問 3：私は学会員ではなくて、一般市民として今日突然この話を聞きに来て、今の今日のお話を非常に信じ難いなと思って聞いていたわけです。25 万という現職の警察官の方々が、自分たちが明らかに違法なことをやっているのを知りながら、職に延々とつくというのはあり得ない。だから、前の方のお話にあったように、正当化の論理というものがあると思うのです。君たちは悪いことをやっているんじゃないとか、現場の警察官の方は、自分に対して言い訳ができるようなことを言ってもらっていると思うのです。

そういうことが耐えられないと思うのですが、何かそういう警察組織が悪いことに対して、それを正当化するというような理屈が、もしあるんだったら教えていただきたい。そんなものは全然ない、みんなが悪いということを知って

やっているということか、どちらかちょっとお話ししたいだと思います。

仙波：それは、私が裏金の話をしましたら、一番多い質問なのです。本当に現場の者は知っているのか。知らないのかと。実際は知っているのです。だけど、仙波のようにノーと言えどなるかも知っているのです。

だから、偽領収書を書けと言われたら、「はい」と言って書かなければ、「これ何ですか」と一言言ったら次は異動なのです。そういう組織で何の組合もない。何の団体もない。警官は、弁護士を全部敵と思っていますから、弁護士に言っていくすべも知らない。じゃあ、自分はそういう偽領収書を拒否して転勤する。昇任試験も通らない。田舎の駐在所や島の駐在所へ飛ばされる。そういうことがありますから、そういうことを知っていますから、全員文書偽造を、3 月以上 5 年以下と全員知っているのですが、書いているのです。 だけど、警察官をやろうと思ったら、それをやらなければ仙波の二の舞になってしまう。

今、愛媛県では、嘘をついたら、「そんな嘘をついておったら警官になるぞ」と言われます。今の愛媛県ではもう事尽きます。なぜかというと、わたしが現実にもそういうことを言っていますから。警察というのはこれだけ腐っていますよと。

愛知県は、1 万 3300 人の警官がおって、(告発するものは) 誰もいないのです。わたしに言わせれば、情けないと思う。だけど、言えどなるかということなのです。それぐらい締め付け、上意下達という言葉ありますが、上意に反すれば階級組織でどうなるかということが、この社会にいないと分かりません。だから、わたしが言っているのです。ということでご理解ください。

星野：時間がきましたので、これで講演会を終わります。どうもありがとうございました。

星野：引き続きまして、経営行動科学学会の学会賞ということで、社会貢献賞を 2 名の方に授与するために式を行います。河合先生、学会の中部部会長の立

場で司会をお願いいたします。

河合：それでは表彰式に移りたいと思います。経営行動科学学会賞というものがございまして、学会賞の選考委員会から、今日ご講演いただきました串岡弘昭さんと、仙波敏郎さんに、社会貢献賞を授与したいと思います。学会としては初めての社会貢献賞で、理事会でお二人に授与することが決定いたしました。この場をお借りしまして表彰式を行いたいと思います。本来ですと学会の会長が来て、お渡しするところですが、ちょっとよんどころない事情で早退しましたので、代わりに選考委員長の星野先生のほうからお渡し願いたいと思います。

じゃあ、お二人こちらへどうぞおいでください。

星野：それでは、経営行動科学学会社会貢献賞の表彰を行います。まず、学会賞については、経営行動科学学会員名簿に記載されていますので、それをご説明いたします。学会賞には6種類あって、優秀研究賞、奨励研究賞、優秀事例賞、功労賞、特別功労賞、そして社会貢献賞ということです。本学会会員、または本学会に対しての貢献が表彰される他の学会賞に対して、社会貢献賞は社会全体に対しての貢献です。その授与の条件として、一番目が経営行動に関して社会正義の実現のため、ボランティアもしくは自己の犠牲において貢献したと考える社会的に認知された人物を対象とすると、二番目が社会貢献の内容が著書等で明確に、記述・公表されていること、三番目が本学会の役職者の推薦により理事会で決定され、また、實際上、少なくとも一度は本学会の年次大会、あるいは地区別部会で発表されていること、であります。そういう三つの条件を二人の方は満たしておりますので、表彰いたします。

表彰状を読みます。

表彰状、社会貢献賞、串岡弘昭殿。貴殿は長年にわたる組織からの圧力に屈することなく、社会正義実現のため多大な貢献をされました。よってここに表彰いたします。平成21年9月12日、経営行動科学学会、学会長、松原敏浩。経営行動科学学会賞、審査委員長、星野靖雄。どうもおめでとうございます。

串岡：どうもありがとうございます。賞状なんかもらったことないので、緊張

しますが、ありがとうございました。

星野：表彰状、社会貢献賞、仙波敏郎殿。貴殿は長年にわたる組織からの圧力に屈することなく、社会正義実現のため多大な貢献をされました。よってここに表彰いたします。平成21年9月12日、経営行動科学学会、学会長、松原敏浩。経営行動科学学会賞、審査委員長、星野靖雄。

仙波：どうもありがとうございました。わたしは指名手配を捕まえるのはうまいのですけれども、わたしが指名手配を捕まえても、こんな立派な賞を貰えません。指名手配の逮捕は、本当は大きい賞ですけれども、わたしにやりたくないということで、この半分ぐらいの賞しかくれません。今日は最高に嬉しく思っています。

星野：受賞のあいさつということで、串岡さんに。

串岡：その前に1回だけの講演で経営行動科学学名誉会員という大それたのをいただきまして、今度また経営行動科学学会社会貢献賞の表彰いただきまして、ほんとに安売りしたんじゃないかなと思ひまして、申し訳ないようなありがたい気持ちです。

会社を辞めましてから、みんなは勤めているんですけども、僕は誰も残ってくれなんて言われません。もう3年たちまして、そろそろどこか小遣い稼ぎにでも行かなきゃならんかなと思っておるんですけど、こんな大それた賞をもらって、そこを履歴書にでも書きたいと思ったら、絶対書けないな、かえって就職できないなと、そういった重い賞が残っております。

ほんとに、だけど、それを心に銘じて、これからも誰かれからいろいろ相談を受けたりすることがありますので、一生懸命に頑張っていきたいと思ひます。本当にどうも今日はありがとうございました。

(拍手)

仙波：わたしは野人と言われておりますけれども、身に余る賞であります。本当にありがとうございました。これを今回持って、全国を回ろうと思ひています。来月、大阪の大学で2校呼ばれています。だから、その大学では、「もらいま

した。ここではもらえませんか」ということでこれからやっ払いこうと思っています。

そして、串岡さんはお仕事を今探しています。私は仕事ができるような状態ではないのです。時間的にすごく追われていますので、しばらくこの本の印税で食べていこうと思っています（笑）。1,500 円になります。これをよろしくお願いします。

司会：どうもありがとうございました。それではこれで、今日の講演会と経営行動科学学会の社会貢献賞の授与式を終了いたしたいと思います。

参考文献

- （1）東玲治 ドキュメント仙波敏郎：告発警官 1000 日の記録、創風社出版、2007 年。
- （2）串岡弘昭 ホイッスルブローアー＝内部告発者：我が心に恥じるものなし、桂書房、2002 年。
- （3）日本経済新聞社、国の不適切経理 1.7 兆円、日本経済新聞、2010 年 11 月 6 日。
- （4）奥山俊宏 内部告発の力：公益通報者保護法は何を守るか、2004 年。

仙波敏郎 略歴

1949 年 愛媛県生まれ
1973 年 愛媛県警巡查部長
2005 年 警察の裏金の実態を実名告発。
2009 年 定年退官
2010 年 8 月 2 日 鹿児島県阿久根市副市長
2010 年 12 月 6 日 同市市長職務代理者
2011 年 1 月 17 日 同市副市長解職

著書

現職警官「裏金」内部告発 講談社 2009 年。